

す浅薄な暴力団のオドカシや、暴行に心挫けて裏切りする
 様な者は一人もおられない。依然として強固なる結束を示して
 會社に對峙してゐる。
 之まで屢々會社側暴力団の暴行沙汰がある度毎に會社の指
 揮、示唆、煽動に依つて行はれたものである事は暴露して
 少からず會社の威信を失墜し、一般輿論の支持を失つたこ
 とは彼等自身もよく知る處である。而も夫を知りつゝ、尚且
 前記の如き暴行に出づると云ふことは、如何に會社が窮し
 てゐるからか、事を雄弁に物語するものである。と同時に、會
 社の頹迷を事實に証明するものだ。
 かくて會社は、今や自ら基穴を掘るか如き愚策を弄して
 其立場を益々不利に導きつゝ、あるのだ。まことに嗤ふにた
 へたる事ではある。

昭和二年十一月廿日

関東驛道
 労働組合
 野田支部 勞議團
 行總支部 勞議團

罷工宣言書

我等は當初より、勞議に依る影響を可久的に僅少の範圍に
 とらぬ以て問題の合理的解決を希望し、舟業、若名、白木
 此等等は、之を罷工に參加せしめなかつたのである。然る
 に會社は、我等の斯る意向を裏切つて愈々姑息なる手段を
 弄して、舟業の組合員を圧迫し、勞議團を窒息せしめんと
 企てた。事茲に至つては最早最後である。
 我等は本意ではあるが、會社のそうした卑劣には飽く
 まで争はねばならない。されば、十八日舟業委員会の總會
 を経て、また十九日委員會議の結果、こゝに舟業委員會
 は、今日より断然罷工を決定するに至つた。

昭和二年十一月廿日

関東驛道
 労働組合
 野田支部
 舟業委員會